

ショートショートフィルムフェスティバル & アジア 2026

【本日4/23（木）から映画祭特設サイトオープン&チケット販売開始】

5000点以上の応募から選ばれた今年の上映ラインナップ約250作品を発表
アカデミー賞ノミネートのスターダムをつかむのはどの作品か！？レナー・ゼルウィガー監督アニメーション、ミシェル・ヨープロデュース作、
オダギリジョー×有村架純主演作品もコンペ入り

特別上映作品にはショーン・ベイカー監督作品やSHINeeオンユ主演ホラーも！

特集プログラムは「カリナリー：食の記憶」&「アート」

米国アカデミー賞公認・アジア最大級の国際短編映画祭、ショートショートフィルムフェスティバル & アジア（略称：SSFF & ASIA）
2026各部門ノミネート作品および特別上映作品を本日、映画祭オフィシャルサイトにて発表、チケット販売をスタートいたしましたのでお知らせ
いたします。 <https://www.shortshorts.org/2026>本日発表されたのは、「シネマエンジニアリング」のテーマのもと、来年のアカデミー賞へのノミネート権とグランプリ＝ジョージ・ルーカスアワードを
かけたライブアクション部門、ノンフィクション部門、アニメーション部門のコンペティションに加え、「Cinematic Tokyo」や「Women in
Cinema」、「Shibuya Diversity」など多様なキュレーションで世界の最新ショートフィルム250点余り。世界の多様な価値観を、人間にとってユニバーサルな「食」の視点でつなぐ「カリナリープログラム：食の記憶」、アニメーションから舞踊、音楽、
ファッションまでを会場となるMoN TAKANAWAの畳の間で体験する「アートプログラム」は2026年注目のプログラムです。◆特別上映作品には、ショーン・ベイカー監督×ミシェル・ヨー主演『サンディワラ』や、「K-POP界の王子」
SHINeeのリーダー、オンユ主演のホラー『4時44分 恐怖の時刻』、「エターナル・サンシャイン」のチャーリー・カウフ
マン監督『How to Shoot a Ghost』など日本初公開作品も続々登場ショーン・ベイカー監督（「アノラ」）と、ミシェル・ヨー（「エブリシング・エブリウェア・オール・アット・ワンス」）主演のマレーシアの夜市を舞台にし
たコメディ『サンディワラ』や、「エターナル・サンシャイン」のチャーリー・カウフマンが監督する詩的で幻想的な『青い世界の扉が開くとき』といった映画
好きにはたまらない特別上映作品のほか、韓国プログラムには、K-POP界のプリンスと呼ばれるSHINeeのリーダーオンユが主演するホラー作品
や、ドラマ「私の解放日誌」のソン・ソックが制作・ほぼ全編一人芝居で緊迫感あふれるサスペンス『夜釣り』など大注目の作品を集めました。◆オダギリジョーさん、有村架純さん、奥田瑛二さん、浅野温子さん、清水美沙さん、黒島結菜さん、鳴海唯さん、
香椎由宇さん、山崎天さん、太田奈緒さんが主演する各作品や、又吉直樹さん脚本作品もコンペ入り！優秀賞が翌年のアカデミー賞短編部門へノミネートできる権利をもつ、コンペティション部門。ジャパンカテゴリーには、オダギリジョーさんと有村架
純さん主演の全編バーチャルプロダクションの『mopim（ムパン）』、太田奈央さん（元AKB48）主演、ワンカットで紡がれる物語『まわりまわ
る』、芥川賞受賞の又吉直樹さん（ピース）が原作・脚本を手掛けた時代劇『死生の峠』など話題作が多数選出。国外作品でも、「ブリジット
・ジョーンズの日記」のレナー・ゼルウィガーが監督を務めるアニメーション『モクモクぶんスカクもがやって来る！』、ミシェル・ヨーがプロデュースするム
エタイをテーマにしたドラマ作品『僕らはファイター』、ティルダ・スウィントンがバズリーニの遺した芸術をあらためて見つめ直すドキュメンタリー『エンボ
ディング・バズリーニをまとめて-引き寄せの法則』など話題必然のショートフィルムが選出されました。◆齊藤工さんプロデュース作品が「カリナリープログラム：食の記憶」に登場、「アートプログラム」にはシシヤマザキ
さんのアニメーション、映像制作の最先端を目の当たりにするAIプログラムにも注目今年特集する「カリナリープログラム：食の記憶」には、実在するラーメン店「麺処まる」をモチーフに、齊藤工さんがプロデュースするショートフィル
ム『私たちが麺処まるに通うまでに至った件』や、「アートプログラム」では、シシヤマザキさんによるアニメーション『くるくる』、また、昨年からも増加
傾向のAIを活用したショートを集めるAIプログラムにも注目です。

食と記憶をテーマにした「カリナリープログラム：食の記憶」／畳の間で没入する「アートプログラム」

東京 オンライン

※以下、東京=東京会場、
オンライン=オンライングランドシアター

SSFF & ASIA 2026では、最先端の映像技術がショウケースされるとともに、人間だけが持つ五感で感じる映画・ショートフィルムを考えます。生きるために必要な「食」に宿る人々の記憶のドラマ、視覚だけでなく、音や触感、嗅覚をもがインスパイアされる「アート」なショートフィルムは東京各会場でお楽しみいただけます。特に、畳敷きの空間と革新的な「アートプログラム」との融合は、これまででない映画祭体験として感性を揺さぶります。



<カリナリープログラム：食の記憶> (ピックアップ)

<アートプログラム> (ピックアップ)

齊藤工さんプロデュース
『私たちが麺処まろに通うまでに至った件』 (Ramen Maro: Where Our Paths Crossed)
監督：小山 巧
23:59 / 2025/日本

イタリアの四人たちがミシュランシェフを目指す物語 『喜びの園』 (The garden of delights)
監督：Simone Spampinato
17:00/2024/イタリア

シシヤマザキさん監督
『くるくる』 (kuru kuru)
監督：シシヤマザキ
2:00/2025/日本

舞踊家の父とロッククライマーの娘：白石阿島の魂の儀式 『TAMASHI』
監督：Ashima Shiraiishi & Jess X. Snow
12:56/ 2026 /
アメリカ、フランス、カナダ

東京都 × ShortShorts PROJECT

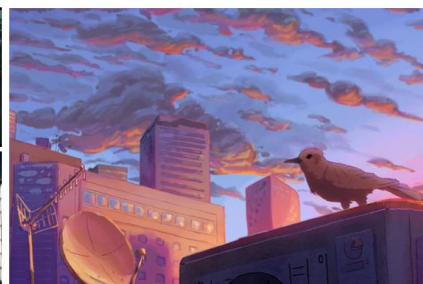
SSFF & ASIAは、東京都と連携し、「国内外の人々が東京を訪れたいくなる」企画：多彩な「東京」の魅力を発信するプロジェクトとして、東京をテーマにしたショートフィルムを世界から公募する「Cinematic Tokyo部門」を2016年に設立。今年も様々な「東京」が表現された5作品をCinematic Tokyo部門として上映、配信し、優秀賞（東京都知事賞）を発表します。

また、日本のクリエイター支援を目的に、NewsPicksにて縦型コンテンツ制作に取り組み、1年で累計5億回再生を超える実績を牽引するプロデューサー・萬野達郎氏を迎え、「縦型ショートフィルムの急速な普及が映画表現にどのような影響を与えているのか」をテーマにクリエイターセミナーを開催します。



Cinematic Tokyo部門上映作品

東京 オンライン



左より：『二重か無か』 (DOUBLE OR NOTHING) / 『涙が燃え尽きるときに』 (Tears Burn to Ash) / 『トーキョーサブマリン』 (Tokyo Submarine) / 『観測者過多都市』 (Tokyo Tourism Paradox -Cinematic Visualizer-) / 『渋谷メルtdown』 (Shibuya Meltdown)

クリエイターセミナー「1年で累計5億回再生！縦型ショートフィルムの発展は映画界にとってどのような影響を及ぼすか」

- 日時：6月5日（金）18：30～20:20
- 会場：LIFORK HARAJUKU（東京都渋谷区神宮前一丁目14-30 WITH HARAJUKU 3F）
- 講師：萬野 達郎 氏 NewsPicks Studio総合演出・チーフプロデューサー/映画監督
- 内容：本セミナーでは、縦型ショートフィルムの急速な普及が映画表現にどのような影響を与えているのかをテーマに、映像の「設計」という視点から考察します。講師には、NewsPicksにて縦型コンテンツ制作に取り組み、1年で累計5億回再生を超える実績を牽引するプロデューサー・萬野達郎氏を迎え、実際の作品上映を交えながら、フレーミングや視線誘導、情報設計など「ついみしてしまう」縦型特有の演出手法を分解。さらに、従来の映画との違いや接点を比較し、AI時代における映像制作の未来や、若手クリエイターにとっての新たな可能性について議論します。映画は変わるのか、それとも拡張するのか。その本質に迫るクリエイター必見のセミナーです。



講師：萬野達郎 氏

■チケット予約：無料ですがご予約下さい。
URL <https://www.shortshorts.org/2026/event/creator-seminar/>

MoN Takanawa: The Museum of Narrativesで開催！ レッドカーペット・オープニングセレモニー & 上映イベント

TAKANAWA GATEWAY CITYに今年新たにオープンした、MoN Takanawa: The Museum of Narrativesで開催する、映画祭のオープニングセレモニー&レッドカーペットには、映画祭代表 別所哲也、映画祭アンバサダーLiLiCoさん、映画祭ナビゲーターの長浜広奈さん、本望あやかさん、MCとして松丸友紀さん、国山ハセンさん、是枝裕和監督（TAKANAWA GATEWAY CITY AWARD）、森川葵さん、前田旺志郎さん、高橋侃さん、遠藤雄斗さんなど豪華ゲストが登場。※一部ゲストはオープニングセレモニーのみ登壇（変更の可能性あり）Global Spotlight Awardや特別賞などの発表、ショートフィルムプロジェクトの発表や、今年の映画祭ラインナップを紹介します。

<レッドカーペット&オープニングセレモニー> ※時間は変更となる可能性があります。

5月25日（月）レッドカーペット 14:30開場 15:00開演 16:00終了予定

セレモニー @MoN Takanawa: The Museum of Narratives パークテラス
16:00開場 16:30開演 18:30終了予定

@MoN Takanawa: The Museum of Narratives BOX1000

【チケット】

レッドカーペット+セレモニーセット券：7,000円 セレモニー券：5,000円

※前売りのみ URL <https://l-tike.com/cinema/mevent/?mid=782757>

<登壇者>



< J-WAVE SOUND OF CINEMA AWARD特別上映イベント >

5月30日（土）17:30~19:10

音楽・歌・声・音・楽器など「サウンド」がユニークで効果的な役割を果たしているショートフィルムの中からリスナー審査員が選ぶSOUND OF CINEMA AWARDの、候補作品の上映と別所哲也によるトークイベントを開催。



SHORT SHORTS FILM FESTIVAL & ASIA 2026

J-WAVE

SOUND OF CINEMA AWARD



各コンペティション、スペシャルプログラムから注目作品をご紹介します！

今年の応募作品は、人間関係の葛藤や社会変革への適応が各部門に共通して見られたテーマです。ライブアクション部門・国際コンペティション部門では、家族や大切なパートナーとの人間関係の変化、また、暴力を描く作品も傾向として目立ちました。アジアコンペティション部門では、異なる世代の価値観の衝突が多く描かれました。女性監督の割合が初めて50%を超え、イランのほか、クルディスタン、アゼルバイジャンといった珍しい国からの応募・ノミネートも見逃せません。ジャパンコンペティション部門では過去と比較し20代の若手監督からの応募が増加し、これまで少数派だった、闇バイトなど現代の歪みを映す社会派作品が増加しました。アニメーション部門は内面世界を描く独自の表現力を探求した作品が、ノンフィクション部門では環境の変化、高齢化社会、テクノロジーとの関係、政治的対立、そして文化的遺産がもたらす影響を考察する作品が目立ちました。

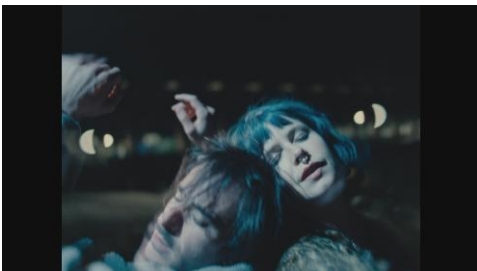
5月26日～都内会場で上映 / 6月11日～オンライングランドシアターで上映

【国際コンペティション カテゴリー 特別上映】

東京

オンライン

チャーリー・カウフマン監督作品



『青い世界の扉が開くとき』 (How to Shoot a Ghost)

監督：チャーリー・カウフマン / アメリカ / 27:36 / ドラマ / 2025

死んで間もない二人の若者が、躍動する都市の気配と歴史の亡霊が漂うアテネの街で出会う。一人は翻訳者、もう一人は写真家。生前社会から孤立していた彼らは、死後もなお、叶わなかった願いや過ちの痕跡と向き合い続ける。やがて二人は街をさまよいながら、存在の厳しくも美しい在り方と、その余韻にささやかな慰めを見出していく。

ショーン・ベイカー監督×ミシェル・ヨー主演
マレーシアの夜市を舞台に繰り広げるコメディショート



『サンディワラ』 (Sandiwara)

監督：Sean Baker / アメリカ・マレーシア / 10:50 / ドラマ / 2026

ミシェル・ヨーが、活気あふれるペナンの街並みを舞台に、変貌を遂げる圧巻の演技を披露する。アカデミー賞受賞監督ショーン・ベイカーとのコラボレーションにより、女性のあり方や文化的アイデンティティ、食文化、そしてインディペンデント映画の精神を大胆かつ没入感たっぷりに讃える作品となっている。

【国際コンペティション カテゴリー ノミネート作品 (ピックアップ)】

パレスチナ出身監督が描く、
人間味あふれる温かなヒューマンドラマ



『ケンタッキー・ガザ』 (Kentucky Gaza)

監督：Omar Rammal / ヨルダン / 0:21:00 / ドラマ / 2025

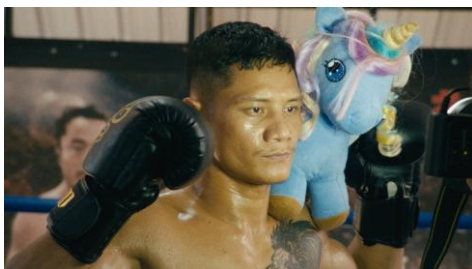
包囲下のガザ。ケンタッキーフライドチキンの存在はもはや伝説としてのみ語られる地で、Anwarは人々の欲望を利用して密輸事業を成功させるが、同時に父とのあいだに深い感情の傷を刻み込んでいく。

【アジア国際コンペティション カテゴリー ノミネート作品 (ピックアップ)】

東京

オンライン

ミシェル・ヨーがプロデュース 落ちぶれたムエタイスターの哀愁劇



『僕らはファイター』 (Nak Muay)

監督：Tinge Krishnan / イギリス、タイ / 0:20:08 / ドラマ / 2025

落ちぶれたムエタイ (ボクシング) スターは、名声と享楽に溺れ、自滅の淵をさまよう。しかし、苛烈な敗北が、彼が追い求めてきた唯一のもの——過去との和解——をもたらす。

イランからの応募作品
現代テヘランのジェネレーションZの生活体験を映し出す



『首輪』 (Collar)

監督：Pouyan Ramezanpour / イラン / 0:16:37 / ドラマ / 2025

テヘランで犬のメロディーと暮らすZ世代の学生ラハ。ある日、伝統的な母の突然の訪問で、“禁止された子”を隠す羽目に。ライフスタイルと家族の期待がぶつかる中、秘密を守ろうと奮闘する。

【ジャパンカテゴリーノミネート作品（ピックアップ）】

東京

オンライン

オダギリジョー＋有村架純主演

『mopim (ムパン)』

監督：水落 豊/0:11:42/日本/ドラマ/2025

百歳を迎える節の病室に“お迎え”の男が現れる。神の計らいで若き姿に戻り望む場所へ行けるといふ。節が選んだのは八十年前、亡き夫に伝えられなかった言葉を届ける旅だった。

又吉直樹さん原作・脚本、戸塚純貴さん主演の時代劇

『死生の峠』 (Mortals at the Cliff)

監督：ヘソ /0:12:40/日本/ドラマ/2025

文政五年、不正の責任を負い役を辞した侍が、死を決意して山の峠に辿り着き、そこで、まるで旧知のように語りかけてくる謎めいた浪人と出会う。侍は戸惑い、苛立ち、やがて心の奥底をさらけ出す中で、死と生の意味を問い直していく…。

黒島結菜さん、浅野温子さん、清水美砂さんが共演

『You Cannot Be Serious! /ユー・キャノット・ビー・シリアス!』

監督：大川五月/0:24:18/日本/コメディ/2025

広告代理店で働く30代独身の菜摘は、NY帰りに予想外の妊娠！キャリアに悩みつつ出産を決意するが、母に「父親はアメリカ人」と告白し運命は激変。母の珍妙なサポートに辟易しながら無事出産の日を迎えるが…

【ジャパンカテゴリー特別上映作品】

第5回HOPPY HAPPY AWARD 受賞監督による特別製作作品

『The Green Man』

監督：香月彩里/日本/ドラマ/2026

着付け師を目指す一郎は、心の声＝3人のガールズにいつも煽られていた。ある日、ベテラン着付け師・よねこの技に魅せられ、一郎は弟子入りをする。出張着付けに同行し、時に騒動を起こしながらも、よねこの「帯は人生の節目に締めるもの」という教えを胸に、様々な人の節目に立ち会い、一郎は成長していく。しかし、ある転機により師弟関係は終わりを迎える。なぜ一郎は着付けの道を志したのか、二人を繋ぐ物語が、最後に明かされる。

第6回 TYO学生ムービーアワード金賞・銀賞受賞「ルール」をテーマにした60秒の作品

次世代の才能の発掘と育成などを目的として開催された「TYO学生ムービーアワード」は、テレビCM・オンライン動画などを中心とした多様なコンテンツ制作の実績ノウハウを持ち、CM、映画などの映像ディレクターを数多く生み出してきた株式会社TYOが主催している学生向けのショートフィルムコンテスト

東京

オンライン



『赤のあいだ』 (Between the Red Lights)

監督：ソフィア アベーノワ/1:00/日本/ドラマ/2026

信号待ちの一時、見知らぬ二人のあいだに、静かな緊張と親密さが生まれる。



『スマホゾンビ』 (Smombie)

監督：山野拓海/1:00/日本/スリラー/2026

周囲への迷惑など構わずに、スマホの画面に没頭する若者たち。注意されても罪の意識はなく、意志を放棄した「ゾンビ」のように歩き続ける。だが、その無責任な指先が、街を飲み込む大事故を引き起こす。未曾有の事態を招いてもなお、彼らが手元の光から目を離すことはない。

【NEO JAPAN プログラム (ピックアップ)】



東京 オンライン

武井壮さん主演作品

『Flicker』

監督：Peter Clay/日本/0:16:23/ドラマ/2026

無機質で角のある"ロ"い(四角い)日々を送っていた主人公が、とある場所で弟と久々に再会。弟の何気ない瞬き、ささやかな煌めきに触れ、次第に人生の"ロ" (丸み)を取り戻していく。

【アニメーション部門 特別上映】



東京 オンライン

デジタルハリウッド主催 デジタルフロンティアグラン
プリ2026 アニメーション系作品最優秀賞受賞

『エモリ』 (EMOLI)

監督：波多野 涼/日本/0:13:45/アニメーション/2026

主人公「ミオ」とおたずねもののヒロイン「テン」の出会いのお話です。

【アニメーション部門ノミネート作品 ピックアップ】



「ブリジット・ジョーンズの日記」のレネー・ゼルウィガーが監督に挑戦！

『モクモクぷんスカくもがやって来る！』 (THEY)

監督：Renée Zellweger/イギリス/0:08:23/アニメーション/2025

町のみんながネガティブな感情に支配され、苛立ちを募らせる中、主人公と愛犬はかつての穏やかな日々を取り戻そうと立ち上がるが、思わぬ逆効果を招き思いもよらない大惨事に！しかしそれがきっかけとなり、町の人は一一致団結する。

【ノンフィクション部門ノミネート作品 ピックアップ】

東京 オンライン

ティルダ・スウィントンが蘇らせるパゾリーニ映画の世界



『エンボディング・パゾリーニ-引き寄せの法則』 (Embodying Pasolini: Law of Attraction)

監督：Jack Hsu/台湾/0:09:48/アニメーション/2025

台北でのパフォーマンス「エンボディング・パゾリーニ」の創作過程を追いながら、キュレーターのオリヴィエ・サイヤールと俳優 ティルダ・スウィントンが、ピエル・パオロ・パゾリーニの遺した芸術をあらためて見つめ直す。リハーサルや記憶、そして衣装を手掛かりに、映画の世界は生きた身体を通して再び蘇る。



孫とおばあちゃん。尊厳死の価値観を問う

『私を蘇生しないで』 (Please Do Not Resuscitate)

監督：Leah Fingold/イギリス/0:23:23/アニメーション/2025

バーバラは、10人の孫に恵まれた愛情深く華やかなおばあちゃん。孫であるリアは、彼女が86歳の誕生日を迎える前に自ら命を絶とうとしていることを知り、その理由を探るためインタビューを始める。だが数週間後、末期の診断がすべてを一変させる。リアは揺れ動きながらも、祖母の死への長年の執着の意味と、彼女の本当の姿を理解しようとする。

【シネマティックフロンティア AIプログラム】

5月28日（木）14:30-16:10 @MoN TAKANAWAパークテラス

WAIFF×SSFF & ASIAのコラボレーションやAIで音楽制作したトレンドの作品も

SSFF & ASIAは今年、世界初・最大級のAIに特化した国際映画祭WORLD A.I. FILM FESTIVAL JAPAN 実行委員会（以下、WAIFF JAPAN）と連携を発表。映画祭AIプログラムでWAIFF受賞作品から2作品を特別上映します。さらに、今年の応募作品から見えてきた、AIで音楽制作をする、今年ならではのトレンド作品もご覧いただけます。



（上映作品ピックアップ）

『This is Me』

監督：平田 茉莉花/日本/アニメーション/2026/10:00

ジェンダーアイデンティティの揺らぎと、社会が求める「分かりやすさ」の乖離を、ファンタジーとリアリズムを融合させた独特の視覚表現で描く短編アニメーション。

WORLD AI FILM FESTIVAL 2026 in KYOTO

Japan Best AI Film賞



（上映作品ピックアップ）

『Horizon』

監督：Felix Roumagnac/フランス/ミュージックビデオ/2026/4:02

時々地平線を眺めると、心のどこかがそっと抜けていくように感じる。』『Horizon』はAI生成による短編映画。夢の中を飛び回る力を持つ「エアランナー・ガール」の物語。実際のカメラで撮影したかのような質感と独特のビジュアル。写真家でもある監督が表現する、古いレンズの持つ欠点や個性はAI生成の人工的な印象を超え、観る者を世界に引き込みます。

TYO「TOKYO STORIES」6月4日（木）17:20-19:10 @ユーロライブ

AIのクリエイションが溢れる世界に、TOKYOの視点をお届けします。東京に蠢く様々な才能が、生成AIを使って新しいショートムービーを創ります。AIのクリエイティブに新しい風が吹くことを目指して。全14作品。



（上映作品ピックアップ）

『TOKYO STORIES / TOKYO Robo』

監督：中村 剛/日本/ビデオアート/2026/5:17

現実と妄想が交錯する東京。「私」はロボット。創造主である「あなた」に操られ、錆びついた商店街を彷徨い続ける。仲間たちが次々とスクラップになっても、私はただ、あなたの「行け」という命令だけを待ち焦がれている。繰り返される創造と破壊。廃棄され、また再生されるだけの命。その無限のループの中で、彼女は最期まで「あなた」を見つめ続け、歪んだ愛を証明しようとする。壊れることは終わりではない——それは、また新しい私が作られるための、錆びついた日常の儀式なのだから。

人気アイドルから名優まで、韓国クリエイティブシーンが放つエネルギー

【Focus on Korea プログラム（ピックアップ）】

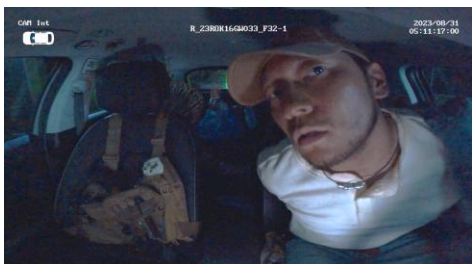


K-POP界のプリンスSHINeeのリーダーオンユ主演のホラーショート

『4時44分 恐怖の時刻』（4:44: Time of Fear）

監督：Jong-gyun Park /韓国/43:58/ホラー/2024

4時44分になると怪奇現象が起きる、というテーマのオムニバスホラー。OTT作品として1エピソード4分4秒×8話で配信され話題となり、映画としても44分の尺にまとめられて公開された注目作。



ドラマ「私の解放日誌」のソン・ソックが制作
ほぼ全編一人芝居の緊迫感あふれるサスペンス

『夜釣り』（Night Fishing）

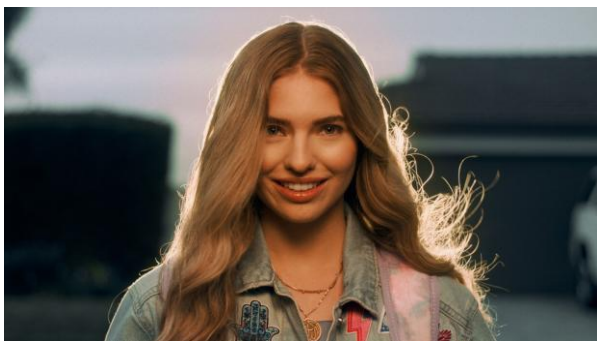
監督：Byoung-gon Moon/韓国/13:00/スリラー/2024

ある暗い夜、電気自動車の充電ステーションで起きる不可解な事件を描いたスリラー物語。

【Shibuya Diversityプログラム (ピックアップ)】

東京

オンライン



ケイト・ブランシェットがプロデュースするコメディ作品
16歳の少女が願ったのは白人になること

『11:11の願い』(11:11)

監督：Mahnoor Euceph/ アメリカ/15:27/ コメディ/2025

16歳のパキスタン系アメリカ人の少女Noorilは、11時11分に片思いの相手の理想のタイプになりたいと願う。しかしその願いは思わぬ形で叶い、彼女は“理想像”のような白人の少女へと変わってしまう。完全に自分を失う前に、Noorilはその願いを取り消そうとする。

ジェンダー平等に取り組む世界の女性映画作家たちの視点にフォーカス。

東京

オンライン

【Women in Cinema Project (ピックアップ)】



愛と怒りがそれぞれの「リズム」で共鳴し合う、魂のダンス

『お姉ちゃんと私』(That's My Sister)

監督：Zoé Pelchat /カナダ/0:14:35/コメディ/2026

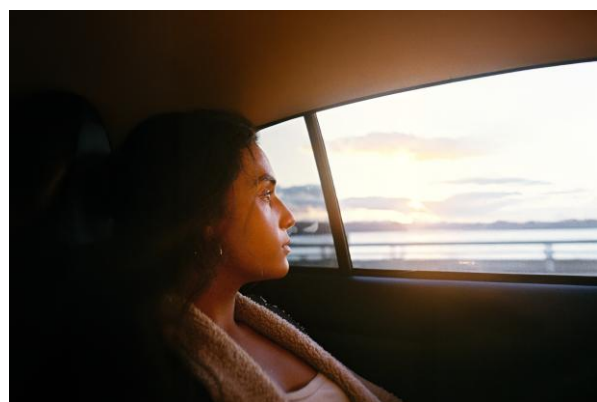
ダウン症のティーン、カミーユはセミプロのダンスカンパニーで踊ることを夢見ている。オーディション当日、彼女に付き添った妹のアガットは、社会に残る偏見を目の当たりにする。愛と怒りは、それぞれのリズムで踊り出す。

LGBTQ+の生き方・生き生きとした色彩・新たな視点で魅せる力強い作品群

東京

オンライン

【Rainbowプログラム (ピックアップ)】



ニュージーランド先住民マオリのクィアの視点で描く
都市の生々しい美しさ

『アタ・プアオ』(Ata Pūao)

監督：Allie Howell /アオテアロア/0:13:50/ドラマ/2025

新しい街での夜、若いマオリのトランス女性は孤独や身の安全への不安、かつての友情のはかなさに向き合う。自分の居場所を手に入れる希望は、視界の向こうにかすかに輝いている。

25歳以下の日本監督による5分以下のショートフィルム

東京

オンライン

【U-25プロジェクト (ピックアップ)】



スプリットスクリーンの可能性を模索
『VIVANT (続)』『御上先生』の若手女優、花岡すみれが熱演

『咳をしても二人』(Double Fantasy)

監督：石川多鶴 /日本/0:04:15/ドラマ/2025

“彼女”は、パトカーの助手席から運転席に向かって銃口を向けている。“彼”は、入院していた病院を抜け出し、盗んだ車の運転席に座る。日が変わる頃、彼女は銃を撃ち放ち、彼は車を走らせる。二人は待ち合わせの場所に向かって…。

【Very Shortプログラム (ピックアップ)】



『プラスチック・サン』 (Plastic Sun)

監督：Inkar Maxut /カザフスタン/2:11/ファンタジー/2025

鎖に繋がれた男は、自らの罪を償う辺獄の砂漠を這い進み、水を求めて彷徨う。

世界へ挑む、才能の原石たちへ。

Tom Yoda Next Frame Awardを新設！

SSFF & ASIA は、株式会社TYリミテッドと、世界を見据えた高い「志」を持つ若手クリエイターを次なるステージへの挑戦を後押しするための賞、「Tom Yoda Next Frame Award」(トム ヨダ ネクスト フレーム アワード) を設立しました。

2026年ノミネートの中で、学生、もしくはプロとしての活動をスタートしていない、若き日本人クリエイターを対象とし、世界を見据えた高い『志』を持つ映像制作の学びと、次なるステージへの挑戦を後押しすべく、アワードセレモニーにて賞を発表・授与いたします。

親子でショートフィルムの世界旅行！キッズプログラム+ワークショップ

5月30日(土)・31日(日) 10:00~16:00 @MoN TAKANAWA TATAMI

映画を観るだけじゃない。感じたことやアイデアを形にして、伝える楽しさを体験しよう！アメリカ、カナダ、スイス、ドイツ、イタリア、ルクセンブルクなど、世界のショートフィルムを親子で楽しんだ後は、シナリオや動画編集を体験できるワークショップを開催。「どうやって面白いショートフィルムができるの？」ワクワクと感動・発見が満載のプログラムをお楽しみください。

【キッズプログラム (ピックアップ)】

東京

オンライン



『我々が滅びたあとで』 (After Us)

監督：Wahid Ibn Reza /カナダ/5:05/

アニメーション/2025

人間の廃墟に静寂が広がる中、オオカミとクズリは互いに信頼を学び、新たな世界の可能性を求めて旅をする。

【ワークショップ】

東京

★ iPadで初めての動画編集体験！

5月30日(土) 11:15-12:15 / 13:45-14:45

★ キッズシナリオ 5月31日(日) 13:45-14:45

iPAD動画体験 講師
じゃと先生(中里福也)

映画を、すべての人のものに。バリアフリーな映画体験を多くの人に広めたい

SSFF & ASIA 2026「ユニバーサル上映会」開催

6月5日(金) 16:20-18:10 @ LIFORK HARAJUKU

東京

視覚や聴覚に障がいのある方にも楽しみいただけるよう、バリアフリー対応を施した上映会。本イベントでは、ダチョウ倶楽部・肥後克広さんがナレーションを務める『HANA』、東京都とSSFF & ASIAによる特別製作作品『日の出を知らない街』、今年新たに東京都と製作をした最新ショートフィルムを上映します。

★情報保障：MCの手話通訳、要約筆記、また全作品に音声ガイドおよび字幕ガイドが付いております。上映後にはバリアフリー対応(手話通訳及び要約筆記)にてトークイベントを実施予定です。イベント会場には車椅子席スペースもご用意します。

チケットURL <https://www.shortshorts.org/2026/event/universal/>

『HANA』

THINK by BRANDED vol.5 | 高崎卓馬氏と考えるブランデッドムービーの作り方 -あなたの会社はどう思われているか。あなたは会社をどう思われたいか。-

東京

2016年の設立から今年10周年を迎えるBRANDED SHORTS が日鉄興和不動産様と連携し、企業・自治体がブランデッドムービーを制作するにあたってのノウハウやスキルを学ぶ全5回のセミナー & ワークショップシリーズ「THINK by BRANDED」プロジェクト。SSFF & ASIA2026でいよいよ最終回を迎えます。

カンヌ国際映画祭やアカデミー賞ノミネートで世界的に注目された映画『PERFECT DAYS』の共同脚本・プロデューサーであり、JR東日本「行くぜ、東北。」をはじめ数々の企業キャンペーンを手がけてきた高崎卓馬氏が登壇。参加者は「自社のブランデッドムービーをつくる担当者」という視点で、自社の課題を起点にした物語の設計図をワークショップで実際に作成します。講義・実践・フィードバックの三部構成で、明日から使えるブランデッドムービーの考え方を持ち帰っていただきます。



BRANDED SHORTS
-THINK by BRANDED vol.5-
**高崎卓馬氏と考える
ブランデッドムービーの作り方**
-あなたの会社は どう思われているか。あなたは会社を どう思われたいか。-
2026.6.1 [MON] 19:00-21:00
AKASAKA INTERCITY CONFERENCE CENTER the Amphitheater

参加
無料

講師
高崎 卓馬
WRITING&DESIGN Inc.
Creative Director/Writer

【THINK by BRANDED vol.5】

- 会場：赤坂インターシティコンファレンス, the Amphitheater
- 日時：2026年6月1日（月） 19:00～21:00
開場：18:45～
- ※セミナー終了後、交流会を予定
- 予約：無料ですがご予約ください、
<https://thinkbybranded260601.peatix.com/>

クリエイターのためのプラットフォームLIFE LOG BOXでは 動画コンテストやオンラインシネママーケットを開催

<SSFF & ASIA 2026 Promotional Movie Contest>

優秀作品は映画祭セレモニーで上映&賞金10万円第28回目を迎える映画祭開催に向けて、テーマ「シネマエンジニアリング」をテーマに、視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚と五感をインスパイアするような映画祭プロモーション動画を募集します。映画祭実行委員会の審査を勝ち抜いた動画が、5月末～6月に行われるSSFF & ASIA 2026のセレモニーなどで上映される予定です。

URL <https://lifelogbox.com/ssff-asia-2026-movie-contest/>

Short Shorts Film Festival & Asia 2026 のロゴ及び「シネマエンジニアリング」をモチーフにしたメインビジュアルを下記サイトよりダウンロードし、動画内に用いても構いません。

ダウンロードはこちら!

URL:<https://drive.google.com/drive/folders/1aYLFYY3cO0uh7knVxj8QJlCl1qhnCctQ?usp=sharing>



【応募締切】2026年5月11日（月）24:00

【登録料】無料

【賞】優秀賞:10万円 ※賞の名称、賞金等は変更の可能性があります。また、該当する作品がない場合もあります。【選考結果通知】映画祭セレモニーで優秀作品を実際に上映し、発表となります。

<オンラインシネママーケット>

ショートフィルムを中心に映像コンテンツの登録・管理・共有を行えるオンラインプラットフォーム「LIFE LOG BOX」にて、年間を通したオンライン上のマーケット「SHORTSHORTS ONLINE CINEMA MARKET」を展開中。

このマーケットでは、世界中のショートフィルムのバイヤー、テレビチャンネル、配給会社などがアクセス可能となり、映像作品にリアルなビジネスチャンスが開かれます。

<https://market.shortshorts.org/>



【世界初】SSFF & ASIA 全応募監督が「審査員」に。 ディーカレットDCPとビジュアルボイス、ブロックチェーンを活用した 映画界初の「価値循環型コミュニティ(DAO)」本日エントリー開始!

<DCPアワード>

ディーカレットDCPが提供する価値循環型のコミュニティ(DAO)の実証システムを活用して、参加者同士が民主的、かつオープンに受賞作品を選定するアワードです。2026年の本アワードでは、作品を応募するクリエイター同士による民主的な投票で受賞作品を選びます。応募対象作品は「過去にSSFF & ASIAへ応募したことのあるすべての日本作品」。本日DAOサービスでのエントリーを開始、4/30(木)に締め切り後、5/7(木)～17(日)まで投票を受け付けます。

結果はSSFF & ASIA 2026 オープニングセレモニーにて発表いたします。

<https://app.lifelogbox.com/festival/shortshorts/dcp>



【部門・アワードの構成】

【公募部門】

●アカデミー賞公認5部門

オフィシャルコンペティションは**ライブアクション部門**（インターナショナルカテゴリー、アジア インターナショナルカテゴリー、ジャパンカテゴリー）および**ノンフィクション部門**、**アニメーション部門**からなり、各部門優秀賞が翌年のアカデミー賞短編実写部門への推薦されます。

●**Cinematic Tokyo 部門** 2016年設立。様々な「東京」の魅力を発信するショートフィルムを上映。

●**U-25プロジェクト** 2019年に設立。将来有望な映像作家の国内外での活躍を応援すべく、国内の25歳までの監督が制作した作品を対象に、5分以下のショートフィルムを公募。

●**ホラー & サスペンス部門 supported by CRG** 2025年設立。独創性・中毒性・怪異性に加え、ストーリー性、SNS時代に響く映像センスと作家性に重点を置いた3分以下のショートフィルムをSNS上で公募。

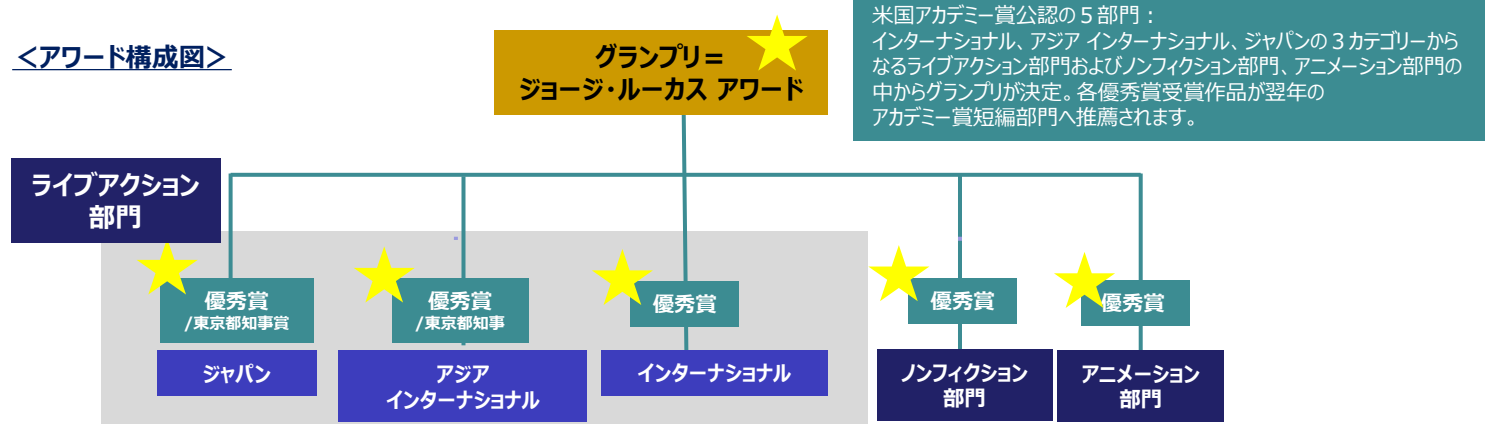
このほか、**BOOK SHORTSプロジェクト**では短編小説を国内公募。SSFF & ASIA 2026で各優秀賞を発表します。

6月10日（水）にアワードセレモニーが開催され、ライブアクション部門（インターナショナル、アジア インターナショナル、ジャパン）、アニメーション部門、ノンフィクション部門の各優秀賞およびジョージ・ルーカスアワード（グランプリ）が発表されます。また、本映画祭の開催に先駆けて、5月25日（月）には、オープニングセレモニーでも一部の賞を発表いたします。

*各セレモニーの概要につきましては別途、取材案内状をお送りさせていただきます。



<アワード構成図>



<その他のコンペティション（部門）・公募プログラム>



※コンペティション（部門）以外に、各テーマを表現した最も優秀な作品に下記アワードが贈られます。

●**Tom Yoda Next Frame Award**・・・【新設】2026年ノミネートの中で、学生、もしくはプロとしての活動をスタートしていない若き日本人クリエイターを対象とし、世界を見据えた高い『志』を持つ映像制作の学びと、次なるステージへの挑戦を後押しする賞

●**DCPアワード**・・・【新設】過去の映画祭応募作品を対象に、価値循環型コミュニティ（DAO）の実証システムを活用しクリエイター同士の相互投票で受賞作を決定

●**TAKANAWA GATEWAY CITY AWARD**・・・映像の未来を開拓し、日本と世界をクリエイティブに繋ぐ人・作品・プロジェクトに授与
●**サイバーエージェント縦型アワード**・・・縦型ショートフィルムコンテンツにおいて、近年「高い効果と表現力」を発揮した作品・プロジェクトに贈られる賞

●**地球を救え！環境大臣賞**・・・地球環境に関するテーマを描くすぐれた作品に授与

●**J-WAVE SOUND OF CINEMAアワード**：音楽・歌・声・音・楽器など「サウンド」がユニークで効果的な役割を果たしている作品に授与

●**HOPPY HAPPY AWARD**・・・「Be HAPPY with HOPPY」を掲げるホッピーの思いを体現するショートフィルムに授与

●**オーディエンスアワード**・・・コンペティション作品の中から、各部門ごとに来場者および視聴者の投票で選ばれる観客賞

●**ベストアクターアワード**・・・オフィシャルコンペティション作品の中から、優秀な俳優に贈られる賞

●**グローバルスポットライトアワード**・・・世界の今を発信し新たな可能性を一映画人として切り開き、世界とつながる作品に授与

●**Most Viewed Award**・・・映画祭オンライングランドシアターで最も視聴された作品に対して贈られる賞

●**企業・団体のブランデッドムービーを募集するBRANDED SHORTSは、10周年を経て2026年9月にVISUAL EXPO by BRANDED SHORTSとして、エキスポ型のプロジェクトに拡張して開催予定**

【ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2026 概要】

■開催期間：

5月25日（月）オープニングセレモニー

5月26日（火）～6月9日（火）東京会場

6月10日（水）アワードセレモニー

※オンライン会場は 5月25日（月）～6月30日（火）

（期間により配信プログラムが異なります。）

■上映会場：MoN Takanawa: The Museum of Narratives

（Box1000、Tatami、パークテラス）

赤坂インターシティコンファレンス、ユーロライブ、

WITH HARAJUKU HALL、LIFORK HARAJUKUほか

※会場により、期間、プログラムが異なります。

■チケット：

【前売り】一般 1,500円、大学生 /U29 /シニア/ 障がい者割引 1,200円

小学生・中学生・高校生 1,000円 小学生未満 無料

【当日券】一般 1,800円、大学生 /U29 /シニア/ 障がい者割引 1,500円

小学生・中学生・高校生 1,300円 小学生未満 無料

【パスポート】一般 7,000円、学生 /シニア/ 障がい者割引 5,500円

【オンライン会場】2,500円（日本国内） / 15米ドル（日本国外）

※オンライン会場のパスポートは5/25から販売開始

■一般からのお問い合わせ先：info@shortshorts.org

■オフィシャルサイト：<https://www.shortshorts.org/2026>

■主催：ショートショート実行委員会 / ショートショート アジア実行委員会



【ショートショート フィルムフェスティバル & アジア】

SHORTSHORTS

FILM FESTIVAL & ASIA

米国俳優協会（SAG）の会員でもある俳優 別所哲也が、米国で出会った「ショートフィルム」を、新しい映像ジャンルとして日本に紹介したいとの想いから1999年にアメリカン・ショート・ショートフィルムフェスティバル創立。2001年には名称を「ショートショート フィルムフェスティバル（SSFF）」とし、2004年に米国アカデミー賞公認映画祭に認定されました。

また同年、アジア発の新しい映像文化の発信・新進若手映像作家の育成を目的とし、「ショートショート フィルムフェスティバル アジア（SSFF ASIA 共催：東京都）」が誕生。現在は「SSFF & ASIA」を総称として映画祭を開催しています。

2018年に映画祭が20周年を迎えたことを記念し、グランプリ作品はジョージ・ルーカス監督の名を冠した「ジョージ・ルーカス アワード」となりました。2019年1月には、20周年の記念イベントとして「ショートショートフィルムフェスティバル in ハリウッド」が行われ、また、2019年の映画祭より、ライブアクション部門（インターナショナル、アジアインターナショナル、ジャパンの各カテゴリー）およびノンフィクション部門の各優秀賞4作品が、2022年からはアニメーション部門の優秀賞を含む5作品が、翌年のアカデミー賞短編部門へのノミネート候補とされる権利を獲得しました。SSFF & ASIAは映画祭を通じて引き続き、若きクリエイターを応援してまいります。

【公式ウェブサイト】<https://www.shortshorts.org>

【本件に関するお問い合わせ先】

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア PR事務局（株式会社サニーサイドアップ内）

担当：野上・武田 TEL：03-6894-3200 / FAX：03-5413-3050 / E-mail：SSFF@ssu.co.jp

ショートショート実行委員会 担当：田中 TEL：03-5474-8201 / FAX：03-5474-8202 / E-mail press@shortshorts.org

【本資料に関する画像については、下記よりダウンロードいただけます】

<https://drive.google.com/drive/folders/19JmW6ZVg74coTE4im7jN-hISuBYPH71g?usp=sharing>